

インクルーシブの窓

令和7年12月 富山県教育委員会 教育みらい室 特別支援教育課



特別支援教育コーディネーターリーダーの真摯な取組を紹介します！その②



VOL.8 1 に引き続き、特別支援教育コーディネーターリーダー研修会に参加された先生方の取組の紹介です。

ミニ研修会や特別支援学校との連携による研修会などを通して、校内の教職員が特別支援教育の意識を高められるようにした。
(小学校)

市教育センターを通して、市内特別支援教育コーディネーター同士で連絡し合える体制を整えた。
(小学校)

自身が研修した内容について、「特別支援教育だより」を発行して、校内の先生方と情報共有を行っている。
(小学校)

校内の特別支援教育担当教員との連携を進め、必要に応じてサポートした。また、小学校児童と保護者との相談を行った。
(小学校)

児童の困難さに合わせた支援ツールを作成したり、紹介したりした。また、小学校への接続がスムーズになるように、5歳児健診の様子や保育園での様子を情報収集した。
(小学校)

複数ある特別支援学級担任、通級指導教室担当者との日常的な連携を図った。また、特別支援学級での実践やその資料等を校内で紹介した。
(小学校)

「つなぐ」ことをイメージして、個別の指導計画の見直し、特別支援教育部会の開催、5歳児健診への参加や保育園訪問を行った。また、校内の子供たちとの会話を増やし、見守っている。
(小学校)

授業のユニバーサルデザイン化について学び、自らの実践を振り返り、整理して校内研修資料を作成した。共通理解により、全校体制での通常の学級における支援の取組につながっている。
(中学校)

特別な支援が必要と考えられる生徒や保護者の気持ちに寄り添い、支援の目指すゴールを共有している。その上で、校内の支援体制を生かした組織として対応している。
(中学校)

聴覚障害のある子供の早期療育の必要性、言語獲得を促すための働きかけや聞きやすい環境を整えることの大切さをまとめたリーフレットやスライドを作成してきた。
(特別支援学校)

地域の小中学校等の先生方の参考になるような教材・教具をホームページで紹介したり、「教育相談部だより」の内容を工夫したりしている。
(特別支援学校)



先生方は学校や地域において、自分の強みを生かした持続的な取組を行っています。子供はもちろん教職員に寄り添い、「見守り」や「交通整理」、時として「伴走者」や「コーチ」のような役割を果たしているのではないかと教えられます。